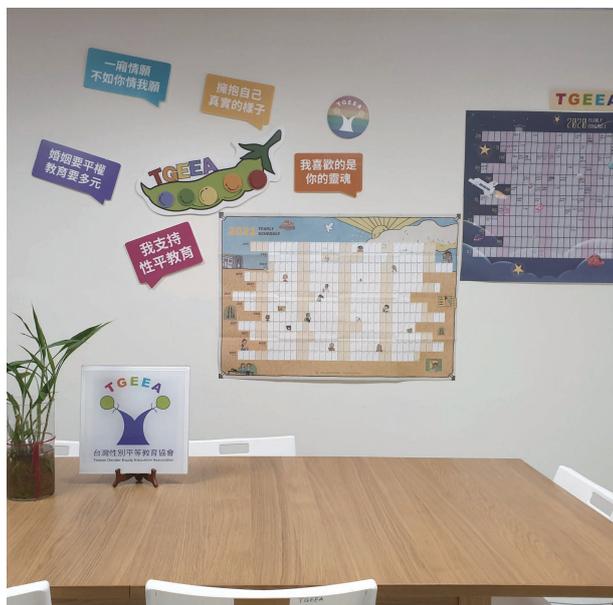




台湾ジェンダー平等教育協会 (TGEEA)



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/218/



エリア

台北市

テーマ

人権

教育

体験学習

ジェンダー

LGBT

5 ジェンダー平等を
実現しよう



16 平和と公正を
すべての人に



あらゆるジェンダーの平等を目指して

台湾では女性の社会的地位が高く、LGBTQに対しても寛容で、2019年には同性婚も合法化されました。そこには人々の意識の変化が大きく作用していますが、それは「教育」を通してもたらされたといっても過言ではありません。その教育を規定しているのが、「ジェンダー(性別)平等教育法」です。台湾ジェンダー平等教育協会は、この法が制定される途上の2002年に学校教員を中心に設立されました。以来、台湾全土でジェンダー平等教育を推進するため、教員研修や啓発講座を開催し、教育教材の開発や関連情報の発信にも力を入れています。国内外の大学生や高校生の訪問も受け入れ、青少年たちの自主的なジェンダー学習のサポートもしています。

学 び の ポ イ ン ト

1.

なぜ「男女平等」教育ではなく「ジェンダー平等」教育なの？

台湾ではもともと男女平等を目指す「両性平等教育法」の制定が進められていましたが、その途上の2000年にトランスジェンダーの中学生葉永誌さんが学校のトイレで変死するという事件が起きました。彼が同級生から日常的に「女っぽい男の子」といじめられていたことが明るみに出て、「男女」の概念では同性愛やトランスジェンダーを含む多様なジェンダーに対応できないことがわかり、「両性平等教育法」から「ジェンダー平等教育法」へと名称が変更されました。以来、台湾では様々な場面で「男女平等」ではなく、「ジェンダー平等」という言葉が使われるようになり、生物学的な性、性的指向、性自認、性表現の平等が目指されています。

2.

台湾の「ジェンダー平等教育」ではどんなことを学ぶの？

台湾の小・中学校では毎学期4時間、ジェンダー平等教育法に基づく授業、活動を実施すること、高校ではジェンダー平等教育を教育過程に取り入れることが定められています。保健体育など特定の教科だけでなく、すべての学習領域でジェンダー平等教育を融合的に進めることになっており、「性教育」もそこに含まれます。つまり、社会におけるジェンダーの平等をあらゆる面から実現しようとしているわけですが、これは、生物学的・医学的取り扱いが中心となる日本の性教育とかなり異なります。LGBTQについても、小学校ですでに「多様な性的指向」を学ぶ機会があり、早い段階で理解できるようになっています。中学校では、社会の中のジェンダー差別を調べ、改善策を提案することも課題になります。このように、台湾のジェンダー平等教育では、個人の心身の発達から社会文化的な課題まで、包括的に学べるようになっています。